

湘南日独協会 会報
Der Wind
(風)

湘南日独協会会報(Der Wind)
VOL. 13. NO. 2. 通巻75. 発行 2011. 3. 6.

湘南日独協会
Japanisch-Deutsche Gesellschaft in Shonan
事務局：〒251-0025 藤沢市鵠沼石上1-1-1
江ノ電第2ビル7F
TEL0466-26-3028 / FAX0466-27-5091

第12回定例総会開催

2011年1月23日(日)定例総会が開催され、2010年度の事業活動並びに決算が報告され、2011年度の事業活動方針並びに予算案が提出され承認されました。

主な本年度の活動は次のような内容です。

①日独交流150周年事業への協力と当協会独自の企画

(例 5月の音楽会)の推進

②青少年の交流プログラムへの支援(例 鎌倉市のワイマル市への派遣計画)

③ イツ語講座の拡充(例 4月より3クラス)

なお、役員改選が行われ宮下啓三氏、佐合千佳子氏が退任され、勝亦正安氏、昔農英夫氏が就任されました。

詳細は同封の当日資料をご参照ください。

♪♪

チケットはお持ちですか！

5月9日(月)鎌倉芸術館「日独音楽家の集い」
のチケットのお手配はお済みでしょうか？

お急ぎ事務局へお問い合わせください。

電話0466-26-3028

新しいドイツ語講座のご案内

本年度上期(4～9月)のドイツ語講座の内容をお知らせします。ドイツ語を始められる方また基礎をもう一度とお考えの方のために、新たにクラスを設け3クラスとなります。多くの皆様のご参加をお待ちしています

初級 土曜日 10:00-11:30 松野 義明先生

中級 月曜日 17:30-19:00 小笠原 藤子先生

上級 土曜日 9:30-11:00 David Garde先生

場所：初級・上級 藤沢カソリック教会

中級 湘南アカデミア

受講料：湘南日独協会会員 38,000円(20回)

その他一般の方 43,000円(20回)

お問い合わせは以下へお願い致します

松野 Tel: 0467-32-7300

Fax: 0467-32-7387

e-Mail: matsunoy@kamakuranet.ne.jp

湘南日独協会の活動予定

■74回例会

日時 3月27日(日) 13:30～15:30

講師 伊藤一氏(理学博士)と伊藤志津子氏(当協会会員)ご夫妻

「ワインよもやま話」

十数年にわたり、ドイツやスイスでの生活で味わった様々なワインを知性と感性溢れるご夫妻が語ります。講演会終了後ワインを楽しむ会を計画しています。

会場 江ノ電第2ビル7階

会費 1,000円

終了後のワインを楽しむ会の参加費用は3,500円

■4月14日(木) 18:00～20:00

独日協会会員約65名がドイツから来訪、横浜鎌倉観光後、湘南・横浜の日独協会会員との交流会を開催

会場 鎌倉稲村ヶ崎レストラン「ペーター」

会費 2,500円(飲み物別料金)

■4月懇話会

日時 4月23日(土) 18:00～20:00

映画会「嘆きの天使」

1930年製作のドイツ映画、マレーネ・デートリッヒ主演の名作、字幕スーパー

会場 江ノ電第2ビル7階

会費 500円

■4月24日 全国日独協会連合会総会 (奈良)

25日 日独交流150周年記念式典(奈良)

奈良での総会、式典に関心をお持ちの方は事務局能登(045-633-8717)迄お問い合わせください

■150周年記念音楽会「日独音楽家の集い」

日時 5月9日(月) 18:30開演

場所 鎌倉芸術館小ホール(全席自由)

チケット前売り中 1,000円

新入会員紹介 (敬称略)

宮 美弥子 佐藤 敏子 高田 幸子
杉本 暁史 杉本 眞理子

会費納入のお願い

2011年度(1月～12月)の湘南日独協会の年会費を同封の振替用紙でお早めにご納付下さい。

ご質問のある方はご遠慮なくお問い合わせ下さい

冬のニューヨーク

会員 佐合 千佳子 (在ニューヨーク)

ニューヨークで暮らし始め3度めの冬を迎えた。

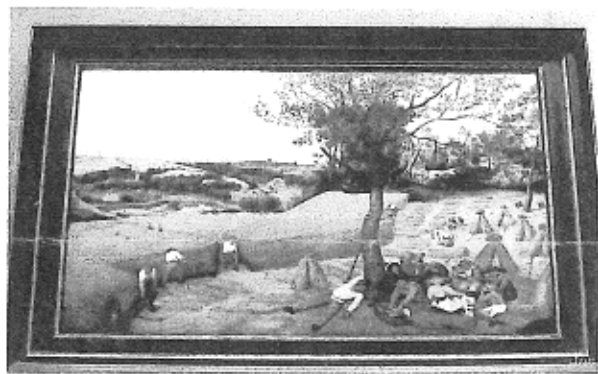
12月に入り、ロックフェラーセンターのクリスマスツリーがスワロフスキーのクリスタルで飾られ、3万個のLEDでライトアップされると、ニューヨークの街は俄かにクリスマスモード一杯になる。

「34丁目の奇跡」の舞台にもなった老舗デパート「メイシーズ」のショーウィンドーを始め、街角のあちこちがクリスマスイルミネーションで美しく彩られ、一年中で一番綺麗な季節となる。

(ニューヨークのお住まいのロビーでの筆者ご夫妻)

クリスマスシーズンの風物詩として有名なのがラジオシティのクリスマススペクタクルショー。そのハイライトがロケッツと呼ばれる粒ぞろいの女性ダンサーによるラインダンス。ダンサー達の美しくすらりと伸びた脚が高く上る度に、隣に座っている夫は鼻の下を長くして目は釘付けになっていた。

ニューヨークシティパレエの「くるみ割り人形」公演もとても素晴らしい。舞台上でみるみる高く聳え立え立っていく巨大クリスマスツリー、そして豪華な衣装に身を包んだバレエダンサー、暫しの間美しい夢物語の世界へ誘ってくれる。



(ブリューゲルの絵)

雪が降りしきるある日、セントラルパークの敷地内に位置するメトロポリタン美術館へと足を運んだ。実は、「ピーテル・ブリューゲルは季節ごとの農民の生活を描いているが、その連作6点の内1点をメトロポリタン美術館が所蔵している」と耳にした事を思い出し、早速ヨーロッパ絵画のセレクションへ。案内図を見ながら探していたら・・・ありました！ブリューゲルの絵、『穀物の収穫』と題されたその絵は、黄金色の麦畑で刈り入れ作業をしている農民の姿が描かれている。展示室中央に置かれた椅子に腰を下ろし、暫く鑑賞。昼時になったのでその日は館内にあるセントラルパークを望めるレストランでランチ。真っ白に雪化粧された公園を窓から眺めながらローストチキンサラダを美味しく頂き、家路についた。

1月講演会「日独外交通訳の現場からーその楽しさと苦しさ」に参加して

会員 野一色 朝一



(新宿御苑にて筆者ご夫妻)

1月23日総会に先立ってベアテ・フォン・デア・オステン女史(以下オステン女史とさせていただきます)の講演をお聞きし、心からの感動を覚えると共に、オステン女史の「知性と教養」の高さ、深さに驚嘆し、言葉もありませんでした。更に、表情や「手振り、身振り」(mit Händen und Füßen)、特に「手振り」の使い方は心理学の会得を深くうかがわせます。

私事となり失礼しますが、私が協会に入会したのは一つは三田会の友人佐藤君(前橋)の紹介と共に、亡き父が、外交官(正規入省ではなく戦時通訳)で戦前イタリア・フランス・ドイツに勤務し、亡くなる昭和40年迄に、よく父から「翻訳・通訳」の話を開いていたためと今はまったくダメになったドイツ語を高校、大学とやっていたのが、その理由であります。



(講演するBeate von der Ostenドイツ大使館 通訳・翻訳部長)

さてオステン女史より、要人の通訳時のエピソードが細かいタッチで出ましたが、ポイントは上手く外し、固有名詞を避け、G8沖縄サミットの時のシュレイダー首相他2名程度しか話されなかったと思います。

スピーカーの意思の伝え方を通訳以上の意識をし、かつ「正しく伝える」難しさやオブラートをつけてしゃべる「外交」をどう通訳し、その「目的」を伝えるか等々、私達日本人以上に「完璧な」日本語での講演に、しばし時間のたつのをわすれたひとときでありました。

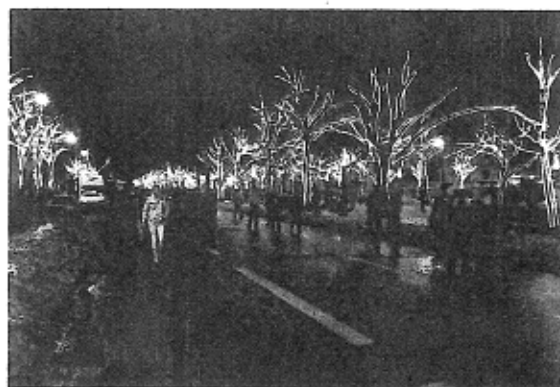
スポーツや日常の健康管理、シンプルな服装等のお話がありましたが、最後に私はオステン女史の背後のドイツ外交、ドイツの国としてのその「能力の高さ」を思い、果たして我々が「日本国」の外交(外交官)、国力はこれからどうなっていくのかと、心底憂いを覚えたしだいでもあります。

ベルリンでの越年

会員 寺田雄介 (在ベルリン)

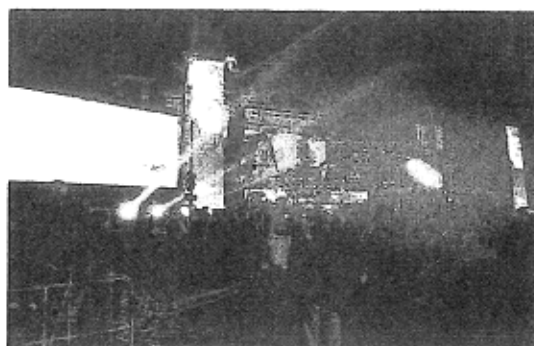
僕がドイツへきてからはや半年が経ちました。マールブルクで2ヶ月の語学研修、それからベルリンで4ヶ月の大学生生活。まもなく最初の冬学期も終わりを迎えようとしています。

みなさんもお存知のように、クリスマスには多くの留学生は祖国へと帰ってしまいます。ドイツ人も例外ではなく、みな生まれ故郷の街へと帰ってしまうので、多くの日本人のように、クリスマスを家族のもとで過ごす習慣を持たない人たちにとって、これらのイベントは必ずしも楽しいものではありません。ところが、年越しとなると状況は一変します。学生たちは再び自分の大学のある街へと戻ってきて、友人と一緒に新年を迎えるのが普通です。街の雰囲気もクリスマスを過ぎたあたりから徐々に変わっていきます。ベルリンに10箇所以上あったクリスマス市も、大晦日になるとその多くは店じまいとなり、その代わりに街いたるところがイルミネーションで飾られます。



(イルミネーションに飾られたウンターデンリンデン)

去年ベルリンで越年した友人から、もしブランデンブルク門に行くなら、早めに足を運ぶほうがいい、と強く勧められていました。と言うのも、この場所で新年を迎える人は毎年100万人以上とか。22時くらいになると広場の周辺にはバリケードがはりめぐらされ、安全面から入場制限をするらしいのです。しかし我々がウンターデンリンデンの突き当たりまで来ると、すでに門の東側にはフェンスが立てられて進入禁止となり、警察官が警備を行っていました。もしかしてもう入れないのかな？と焦りましたが、大晦日のためのイベント会場は門の西側に設営されており、東側からは入場できないとのこと。僕は友人と一緒に門を迂回し、国会議事堂側からブランデンブルク門へと向かいました。西側では道路が歩行者天国となっており、越年イベントのためのスペースがすでに確保されていました。こちらにも小さなゲートが作られ、入場するときには手荷物の検査がありました。ペットボトルは持ち込めません。門のすぐ前にはバンド演奏のためのステージ、その左右には「2011」と書かれた垂れ幕と巨大スクリーン、そしてステージの手前からは空に向けて無数の照明が用意されていました。新年までまだ6時間近くあるにもかかわらず、すでにかかなりの人が集まってきていることは、写真からもおわかりいただけることと思います。



(新年を目前に控えたブランデンブルグ門)

人々はみな新年を前に浮かれ騒ぎ、手にはビールを持ち、いたるところで花火を楽しんでいます。ドイツでは年間を通して基本的に小売店で花火を買うことはできません。しかし年末になるとデパートにも小さな商店にも「花火あります」の看板が掛けられ、人々は競って買い漁ります。一人で100ユーロ以上買う人も珍しくありません。しかし花火をし慣れていないのか、マナーという点では日本人に遠く及びません。水のないところでも平気で火をつけますし、遊び終わった花火は雪に差し込むように捨てていきます。ドイツの花火には「人に向けて遊んではいけません」とは書かれていないのでしょうか、平気で僕たちのほうに向けて火花を飛ばしてくる人もいました。

しかし、もっとも僕たちを驚かせたものは花火ではありませんでした。ホームで電車を待っていると、突如ドカーン！！と今まで耳にしたことがない類の爆発音が聞こえてくるのではないですか。ピストルの発砲音のような、しかしそれよりもはるかに大きな音量で、地響きがするほどでした。午前0時が近づくにつれ、爆発音はより頻繁に聞こえてくるようになりました。はじめはテロかなにかが起きたのかなと思いました。しかし、注意して行き交う人を観察すると、花火と一緒にダイナマイトのようなものを持っている人が目につきました。オレンジ色の水筒のような巨大な爆竹です。おそらく新年まで我慢することができずに、もしくは誤って火をつけては、あちらこちらで爆発させているのです。日本では経験したことのない轟音なので、怖いもの知らずの僕も少なからず恐怖心を覚えました。後から聞いた話によると、毎年この爆竹で怪我をする人が後を絶たないそうなので、実際に危険な代物なのでしょう。

まるで戦場のような街中をびくびく歩き、無事に家までたどり着いてからは、日本から持ってきたお蕎麦を茹でて、友人と日本流の年越しをしました。ブランデンブルク門前ほどではないですが、2011年になった瞬間には我が家のあるヘルマンプラッツにもたくさんの花火が上がり、自宅の窓からその様子を眺めながら、新年を楽しく迎えることができました。湘南日独協会の皆様はどのように新年をお迎えになりましたでしょうか。『紅白歌合戦』や『ゆく年くる年』をご覧になったのでしょうか。正直に申し上げると僕は紅白を見たことがほとんどないのですが、何人かのドイツ人の友人が、この国民的な番組の存在を僕よりもはるかに詳しく知っていることには驚かされました。

私とドイツ (5)

有希 マヌエラ・ヤンケさんと

「ミュンヘンポッポの会」 (その1)

会員 若林 倅子



(マヌエラ・ヤンケさんと筆者)

5月9日「日独音楽家の集い」にご出演下さる有希 マヌエラ・ヤンケさんは、私が大勢の協力で1986年創設した幼児クラブ「ミュンヘンポッポの会」のご出身です。

ミュンヘンでの生活を始めた1984年、息子は4歳・娘は2歳でした。息子は日本語補習校の幼稚部に週1回通い、有希さんの姉歩さんも同じクラスでした。

2年後「ポッポの会」設立によって、35人もの幼児が集まり、娘は年長組の、有希さんの次兄純君は年少組の第1期生となりました。当時3歳の純君が、「ポッポの会」のクリスマス会で、ヴァイオリンを弾いてくれた写真があります。有希さんは生まれたばかりの赤ちゃんでした。

その後、ヤンケさんのお母様との音信は途絶えておりましたが、「ポッポの会」設立にご尽力下さった友人ツェンスさん(映画監督の妻)を介して、2・3年ほど前からメールで連絡を取り合うようになりました。でも、歩さんのお顔ははっきり覚えているのに、お母様のお顔は思い出せませんでした。再会し声をかけられた時、驚きました。当時、ドイツ人とばかり思っていた長身の彫りの深い美人が、ヤンケさんでした。

先日有希さんにお会いした時、不躰にも「4人兄弟姉妹なら、1人位脱落者は出るはずなのに、どうして全員優秀な音楽家になれたの?」と質問しましたところ、冗談めかして「スパルタ教育だった??」と笑い、「4人だったからこそお互いに切磋琢磨できた」との答え。「2ヶ国語を母国語のように話せる方は沢山知っているけど、たった週1回の日本語補習校の勉強だけで、どうして日本語をスラスラと書けるの?」と聞いたところ、「本を読むのが好きだから・・・」とのことでした。

「外地で育つ子が帰国しても困らないよう、バイリンガルの国際人を育てたい」と「ポッポの会」を設立しました。その小さな種が、こうして大輪の花を咲かせてくれています。

「日独音楽家の集い」のプロフィールも曲目解説も有希さんご自身の文章です。演奏後には、CDも販売も致します。鎌倉芸術館で、皆様のお越しをお待ちしております。

(次号へ続きます)

お知らせ

○横浜日独協会の3月の催し物

3月12日(土) 14:30~16:00

講師 川口マーン恵美氏 作家・ドイツ在住

「ドイツ人と日本人、似ているところと違うところ日本人は性善説で暮らしている!」

(講演終了後希望者での茶話会を予定しています)

会場 神奈川大学白楽キャンパス7号館43教室

会費 会員1,000円 非会員 2,000円

連絡先 能登 電話045-633-8717

○2月の懇話会にドイツからの参加者

2月26日の懇話会「湘南日独協会発足の頃」にドイツのHalle (Saale)から女子学生Guede Thomasさんが参加されました。彼女は日独協会の設立に関する研究をしており、アンケートも集めて帰国されました。講演会後の食事会にも参加されました。次号のDer Win 彼女からの寄稿を掲載予定です。

下の写真は当日の講師吉田理事とのツーショットです。



編集後記

期せずして、ニューヨークの佐合さん、ベルリンの寺田さんよりそれぞれの大都市での歳末の様子のご寄稿を頂きました。また上記のように、2月例会にはドイツからの参加者もありました。湘南日独協会はすっかりグローバルな(適切な表現化かどうか)動きを見せています。写真がカラーでお見せできないのが残念です。

横浜日独協会も活動を始めました。相互に交流そして補完することがこれからのさらなる当協会の発展には意味を持つと思われます。それぞれの行事への相互の会員の参加が望まれます。

日独交流150周年記念の音楽会が近づいています。前売り券は1,000です。出演して頂く音楽家の方々では考えられない価格です。合唱団「アムゼル」も特別練習を重ねています。皆様の知人友人へお声を掛けて頂き、この記念音楽会を是非成功させましょう。早めのチケットのご購入をお願い致します。(大久保)

★★ 湘南日独協会のホームページ ★★

URL: <http://jdg-shonan.ciao.jp/index.html>

「全国日独協会一覧」からもアクセスできます。